

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																										
専門学校日産京都自動車大学校		昭和63年3月14日		田中 篤司		〒613-0033 京都府久世郡久御山町林八幡講27-6 (電話) 0774-46-1123																										
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																										
学校法人日産学園		昭和58年2月15日		伊藤 由紀夫		〒329-0606 栃木県河内郡上三川町大字上郷字南西原2120番地 (電話) 0285-56-3585																										
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																								
工業	工業専門課程		一級自動車工学科			—		平成20年文部科学省告示第16号																								
学科の目的		自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。																														
認定年月日		平成27年2月17日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																				
4	年	昼間	4,099時間	1,290時間		—		2,809時間		—		—																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																						
310人		249人		10人		9人		17人		26人																						
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～翌年3月31日					成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 規程出席率の充足、筆記試験、実習試験、授業態度、提出物 成績表記：優(80点以上)、良(70点以上)、可(70点未満)																								
長期休み	■学年始：4月1日～4月10日 ■春季：4月28日～5月5日 ■夏季：7月21日～8月31日 ■秋季：10月28日～11月5日 ■冬季：12月20日～1月10日 ■学年末：3月20日～3月31日					卒業・進級条件		学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、70点以上で履修とする。 必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ進級・卒業を認める。																								
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任による本人面談・三者面談、クラス担任による学修相談、教科担当による補習授業、学年統括による生活指導、専門カウンセラーによるカウンセリング、学生動向の学年情報共有など					課外活動		■課外活動の種類 スーパーGT3000レース 野球部、サッカー部、バスケットボール部、自動車整備部、自動車競技部など ■サークル活動：有																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 日産自動車、日産オートモーティブ、オーテックジャパン等の日産圏企業、日産販売会社を中心とした自動車業界 ■就職指導内容 オリジナルテキストを用いたキャリア形成教育、外部講師によるキャリア育成教育、就職先採用担当者による就職ガイダンスなど ■卒業者数 57 人 ■就職希望者数 57 人 ■就職者数 57 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 100.0 % ■その他 卒業者のうち1人については、2020年4月に本校自動車整備・ボディリペア科に編入学している 令和2年度卒業生に関する 令和3年5月31日時点の情報					主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>1級小型自動車整備士</td><td>②</td><td>57人</td><td>57人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	1級小型自動車整備士	②	57人	57人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																													
1級小型自動車整備士	②	57人	57人																													
中途退学の現状	■中途退学者 5 名 令和2年4月1日時点において、在学者260名 令和3年3月31日時点において、在学者255名 ■中途退学の主な理由 学力不振、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による定期的な個人面談、専門カウンセラーによるカウンセリングなど					■中退率 1.6%																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 特待生奨学金(学業成績優秀者)、遠隔地奨学金(自宅通学が困難で入寮希望)、女子奨学金(学業成績優秀な女子)、一級遠隔地奨学金(自宅通学が困難で入寮希望の一級志望)、就学支援金(困窮世帯) ■専門実践教育訓練給付：給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																															
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有 JAMCA(全国自動車大学校・専門学校協会)による、文科省委託事業(第三者評価の実証研究)として受審。 2016年11月25日に受審。結果については、文科省委託事業報告として公開。																															
当該学科のホームページURL	https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/course/general.html																															

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、養成内容を把握し、具体的な授業科目や教育内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。

また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすことを目的に設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
乗地 博之	京都府自動車整備振興会 教育課 課長代理	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
平松 由揮	滋賀日産自動車株式会社 副店長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
秋山 浩志	兵庫日産自動車株式会社 執行役員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
清水 正美	京都府自動車車体整備協同組合 副理事長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
高橋 治彦	日産自動車株式会社 グローバルアフターセールス事業本部	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
中村 達也	京都サービス株式会社 工場長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
以下、学内委員			
田中篤司	日産京都自動車大学校 学校長		
鳥井英雄	日産京都自動車大学校 教頭		
清水昭一	日産京都自動車大学校 整備科2年・国際自動車整備科1年 課長代理		
武内健二	日産京都自動車大学校 整備科1年 課長代理		
大村哲嗣	日産京都自動車大学校 工学科・車体科 課長代理		
山瀬匡隆	日産京都自動車大学校 車体科統括		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上 開催時期 5月、3月

(開催日時)

令和01年度	令和1年5月17日	13:00～15:00	
令和01年度	令和02年03月	新型コロナ肺炎に伴い実施延期	
令和02年度	令和2年7月28日	14:00～16:00	新型コロナ肺炎に伴いWEB会議により開催
令和02年度	令和3年2月5日	10:00～12:00	新型コロナ肺炎に伴いWEB会議により開催
令和03年度	令和3年7月9日	10:00～12:00	緊急事態宣言の発出に伴い日程を延期して開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・実作業の訓練頻度が低いという指摘があり、授業時間内での訓練の充実を図る。
- ・留学生の日本語能力をカバーできるよう、留学生育成プログラムを開発する。
- ・オンライン授業への取り組み、在宅学習による学習環境、在宅勤務による配信環境等、ICT環境の整備を進める。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

しっかりした基礎的技術を修得することをベースに、就職後に必要とされるお客様対応技術、電気自動車を中心とした新技術など、実践的かつ専門的な実習を、企業等の要請に基づいて実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実際の整備・点検を体験し、学校の実習との違いを肌で感じさせる。
企業からの技術情報を基に授業内容と評価基準を定めている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
エンジン電子制御1	1. センサー、アクチュエータの名称と役割を理解する。 2. 圧縮圧力の点検が出来る。 3. コンサルトのデータモニタと自己診断を表示できる。	日産自動車株式会社
AT	1. ATの分解組立と構成部品の構造及び作動の理解 2. 自己診断	日産自動車株式会社
騒音・振動	車体、トリム等から発生している騒音・振動に対してテスターを活用して発生部位を絞り込み、発生部位を特定できる。	日産自動車株式会社
エアコン	1. ゲージマニホールド、ガス漏れ探知機等を使用し、冷凍サイクルの点検、不具合箇所の特定ができる。 2. オートアンプの自己診断、サーキットテスター等で、整備要領書に則ってオートエアコンの点検・判定に基づき、不具合箇所を特定できる。	日産自動車株式会社
定期点検	1. 確実な新車点検及び法定1年点検作業を身につける。	日産自動車株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員研修計画に基づき、研修プログラムを企画し、連携企業による研修を実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

NBC(日産自動車による技術研修)受講、整備主任者法令研修、整備主任者技術研修、安全運転管理者講習など

②指導力の修得・向上のための研修等

JAMCA教職員研修、TEC(職業教育・キャリア教育財団)研修、メンタルヘルス対応力向上研修など

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

日産自動車、日産販売会社、UDトラックス、ミシュラン、モービル石油など企業による講習など

②指導力の修得・向上のための研修等

JAMCA教職員研修、部品メーカー研修など

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、企業等と連携し、必要となる専門分野に関する知識、技術、技能などを教員が十分に理解・習得し、授業内容・方法の改善工夫等をして授業が実施できるよう、「教育研修」を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育人人材像等
(2)学校運営	基準2 学校運営
(3)教育活動	基準3 教育活動
(4)学修成果	基準4 学修成果
(5)学生支援	基準5 学生支援
(6)教育環境	基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受入れ
(8)財務	基準8 財務
(9)法令等の遵守	基準9 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	基準11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価結果から出てくる案をもとに学内で検討を行い、できることから活用していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
田中 存	京都府自動車車体整備協同組合 事務局長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	団体代表
藤本正昭	日産大阪販売(株)BP事業部 部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業代表
中津秀樹	日産サービスセンター株式会社 阪神支社 総務部 総務課 課長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	卒業生代表
徳田悦生	(社)京都自動車整備振興会 専務理事	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	団体代表
三浦直也	(株)京都日産 執行役員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業代表
川畑利彦	(株)近畿日産 監査支援部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業代表
中森耕平	京都府立田辺高校 自動車科	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	高校代表
西村 剛	正和自動車販売株式会社 会長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生代表
以下、学内委員			
田中 篤司	日産京都自動車大学校 学校長		
鳥井 英雄	日産京都自動車大学校 教頭		
吉澤 英行	日産京都自動車大学校 課長		
小野 佳代子	日産京都自動車大学校 課長		
加藤 敏彦	日産京都自動車大学校 課長		

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:<https://wp.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/wp-content/uploads/2019/08/kankeisyahyouka.pdf>

令和3年7月2日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動や学校運営に関する情報提供を積極的に行い、関係者の理解を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、沿革、特色、校則及び教育方針、教育基本理念、教育目標など
(2)各学科等の教育	選考方法、定員数、教育課程、成績評価基準、取得資格、進路状況など
(3)教職員	教職員数、組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業との実習、就職支援の取組み状況など
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動への取組み状況など
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、就学支援の内容
(8)学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 学校ホームページ

URL:

<https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/infomation.html>

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車工学基礎	1. 自動車の基本的な構造、構成部品を理解する。 2. 自動車に係る基本的な原理、原則を理解する。 3. 国家2級試験 工学分野の計算問題を理解する。	1通	62		○			○			○	
○			エンジン構造基礎	1. ガソリン・エンジンの構造、作動の理解。 2. 電子制御装置の構造、作動の理解。 3. ジーゼル・エンジンの構造、作動の理解。	1通	86		○			○			○	
○			シャシ構造基礎	1. 動力伝達装置の構成する各機構の構造、作動を理解する。 2. アクスル及びサスペンションの構造、作動を理解する。3. ステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの要素や役割を理解する。 5. ブレーキ装置を構成する各機構の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造、作動を理解する。 7. タイヤ、ホイールの構造、作動を理解する。	1通	84		○			○			○	
○			電装品構造基礎	1. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 2. バッテリーの構造、機能、整備を理解する。 3. 始動装置の構造、作動を理解する。 4. 暖冷房装置の構造、作動を理解する。 5. 灯火装置の構造、作動を理解する。 6. 計器装置の構造、作動を理解する。 7. 自動車に使用されている半導体の役割、作動を説明できる。 8. 充電装置の構造、作動を理解する。 9. 点火装置の構造、作動を理解する。 10. 予熱装置の構造、作動を理解する。 11. 多重通信の概要を理解する。	1通	61		○			○			○	
○			整備機器取扱	1. 自動車を整備する上での工具、測定具の構造、取り扱い、保守等を理解する。	1前	25		○			○			○	
○			エンジン分解組立	1. ガソリンエンジンの構造がわかる 2. エンジン主要部品の名称・役割がわかる 3. 工具・装置の正しい使用法と安全配慮ができる 4. ファンベルトの脱着ができる 5. 計測機器の正しい使用と正確な測定が出来る。	1前	40				○	○			○	
○			基礎整備	1. 車両の基本的部分の名称と取扱方法の基本を理解し、安全な作業ができるようにさせる。 2. ジャッキアップの作業方法と、そのときの注意点を理解させ、危険予知ができるようにさせる。 3. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解させる。 4. 基本的な点検の必要性を理解し、点検及び交換作業・良否判定ができるようにさせる。	1前	40				○	○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			基本電装	1. オームの法則を使い、回路の計算ができる 2. オームの法則を使い、抵抗値、電流値、電圧値を推理できる 3. サーキット・テスタの使用し、回路の測定が出来る。 4. コイルの特徴を実験や測定することで理解を深める。 5. オシロスコープの取り扱い、注意点を学び、直流と交流の違いを理解できる。	1前	40				○	○			○		
○			工作作業	1. 切削作業を安全に行える。 2. 指定する工作物を、正確に作成できる。 3. 板金塗装の作業内容を理解する。 4. 塗料の種類（成分）を理解する。	1前	40				○	○				○	
○			エンジン電装	1. 点火装置の構造と作動を理解する 2. 充電装置の構造と作動を理解する 3. 半導体の特徴を実験や測定することで理解を深める。	1前	40				○	○				○	
○			ステアリング・サスペンション	1. ラック・ピニオン型パワー・ステアリングの脱着を通じて、ステアリング装置全体の構造を理解する。 2. ステアリング・ギヤ機構の種類及び調整方法を理解する。 3. 独立懸架式と車軸懸架式の構造を理解する。 4. サスペンション(前・後)の脱着作業を理解する。 5. アライメントの測定が正しい手順でできる。	1前	40				○	○				○	○
○			動力伝達1	1. 分解・組付作業を通じて、構造やその作動の理解に繋げる目的で行う。 2. ユニット教材や工具等の取り扱いやその注意点を学ぶために行う。	1前	40				○	○				○	
○			車体電装	1. 配線図集の使い方を学び、電気装置の基本的な点検方法と考え方を習得する 2. 電装ボードを使用し、電気の流れを系統立てて確認する方法を学ぶ 3. 各部の電圧の掛かり方や抵抗値の測定結果により、故障診断の考え方を学ぶ 4. 車両を用いて灯火装置の点検が出来るようにする。 5. 車両を用いて簡単な故障診断が出来るようにする	1前	40				○	○				○	
○			ブレーキ1	1. ブレーキ装置の構造と作動の理解 2. ブレーキ装置の整備作業習熟	1後	40				○	○				○	
○			動力伝達2	1. クラッチの分解組立及び調整ができる。 2. クラッチの構造及び作動が理解できる。 3. 車両からトランスミッション及びクラッチの脱着ができる。4. クラッチの遊びや不具合現象が理解できる。 5. A/T、トルク・コンバータの概要を理解する。	1後	40				○	○				○	
○			電気装置	1. スタータ・モータの概要、構造(名称、役割)を理解し、各部の点検方法、使用テストを理解する。 2. ワイパ・モータのLo、Hi、Auto Stopの各々作動と回路図を読み取れる。 3. 指定された条件で、ワイパ回路の点検ができる	1後	40				○	○				○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンジン分解始動	1. エンジンの分解始動をするなかで、安全作業を知る。 2. バルブクリアランスの点検調整が出来る。 3. オイルクリアランスの点検が出来る。 4. 冷却装置、潤滑装置の概要と点検が出来る。 5. ファンベルトの交換・調整が出来る。	1後	40				○	○			○	
			定期点検	1. 12ヶ月点検項目作業及び日常点検項目を指定された時間で点検する。 2. 定期点検記録簿の記入ができる。	1後	40				○	○			○	
○			動力伝達3	1. ファイナルドライブ、プロペラシャフトの脱着作業を整備要領書を見て正しく理解した上で作業できる。 2. ファイナルドライブの分解組立により構造・調整方法を理解する。 3. LSDの構造、作動を理解する 4. ユニバーサルジョイントの構造、作動を理解する	1後	40				○	○			○	
○			エンジン電子制御1	1. 電子制御装置の概要を理解する 2. センサ、アクチュエータの名称と役割を理解する 3. 圧縮圧力の点検が出来る。 4. コンサルトのデータモニタと自己診断を表示できる。 5. 各センサの電源電圧の測定	1後	40				○	○			○	○
○			ブレーキ2	1. 中・大型車のブレーキ点検方法、整備方法を学習する。2. ブレーキ・キャリパ、ホイール・シリンダの点検整備方法に習熟する。 3. 真空式制動倍力装置の構造および作動を理解する。 4. 固定型キャリパのパッド脱着が出来る。 5. パーキング・ブレーキの隙間および引き代調整が出来る。	1後	40				○	○			○	
		○	TS育成	お客様対応の基本を学ぶ	1後	6		○			○			○	
		○	宿泊研修	宿泊を通じて規律、ルール、コミュニケーションを学び、クラスという1つの「チーム」としての一体感をも醸成する。	1前	16		○				○		○	
		○	販売会社	販売会社では実際にどのような仕事をするのか、テクニカルスタッフとして求められるものは何か、また社会に出るまでにはしておかなければならないことは何かなど卒業生の声を交えながら「現場」を知る。	1前	1		○				○		○	
		○	就職セミナ1	学生からの脱却を図り、社会人として自分が希望する販売会社から内定を頂くためにすべきこと、マナーなどを学ぶ。	1通	19		○			○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	スーパーGT	プロ意識の醸成、即ち「チャレンジ」「チームワーク」「コミュニケーション」「責任と信頼」「継続」「感謝」という6つのキーワードを全員で共有し、実現していく。 学生はレースという真剣勝負の場や前後の活動で、社会人として必要な【主体性】【チームワーク】【おもてなしの心】【感謝の気持ち】を磨くために、全員がチャレンジし、学びあうということを念頭に置いて活動する。	1前	8			○		○			○	
		○	国内研修	日産自動車の本拠地である横浜に行き、自動車製造の現場からその生産方式を学ぶとともに、日産自動車の歴史をも学ぶ。	1後	16		○				○			○
		○	損害保険	整備士資格だけではなく、自動車業界に携わる者として必要な保険の知識を学習するとともに、募集人基礎知識の資格取得を目指す。	1後	14		○			○				○
○			自動車工学応用	1. 国家二級試験 工学分野の問題が解け、理論説明が出来る。 2. 国家二級試験 工学分野の問題を理解する。 3. 国家二級試験 電装分野の問題を理解する。 4. 国家二級試験 バルブタイミングの問題を理解する。 5. 全教科書の内容を登録試験問題を中心に理解する。	2通	101		○			○				○
○			エンジン構造応用	1. LPG・CNG等の燃料装置を理解する 2. エンジンの電子制御を理解する。 3. 4ストローク1サイクルガソリンエンジンの構造、作動を理解する。 4. 冷却装置の構造、種類、作動を理解する。 5. 潤滑装置の構造、作動を理解する。 6. 吸排気装置の構造、種類、作動を理解する。 7.ガソリン分野では、過給器の構造、種類、作動に関して及び、可変吸気装置、EGR装置について理解する。 8.ジーゼル分野では、可変容量式ターボチャージャ、排気ガス後処理装置に関して、理解する。 9.ジーゼルエンジンの燃料装置の構造、種類、作動を理解する。 10. エンジンの整備と故障探求の方法を理解する。	2通	58		○			○				○
○			シャシ構造応用	1. 走行抵抗の種類などを理解する。 2. LSDの構造、作動を理解する。 3. パワーステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの役割を理解する。 5. ブレーキ装置の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造・機能を理解する。 7. 故障診断の考え方を理解する。	2通	74		○			○				○
○			電装品構造応用	1. バッテリーの機能を理解する。 2. 空気調和装置を理解する。 3. 始動装置を理解する。 4. 充電装置を理解する。 5. 点火装置について理解する 6. 予熱装置について理解する。 7. 計器について理解する。 8. 電気装置について理解する。 9. 安全装置について理解する。	2通	48		○			○				○

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車法規	1. 道路運送車両法の目的を理解する。 2. 道路運送車両法の検査等を理解する。 3. 自動車の整備事業について理解する。 4. 自動車の保安基準に定められている数値を覚える。	2後	40		○			○			○	
○			整備知識	日産資格制度の内容をもとにTS3級の知識を身に付ける	2後	35		○			○		○		
○			サスペンション応用	1. アクスル及びサスペンションの概要・役割を理解する。 2. Frサスペンション部品の脱着ができる。 3. ドライブ・シャフトの脱着ができる。 4. エアサスペンションの構造、作動を理解する。 5. エア製造系の構造と作動を理解する。	2前	36				○	○			○	
○			A/T	1. オートマチック・トランスミッションの構造、作動を理解する。 2. トルク・コンバータのトルク増大作用及び性能曲線の見方を理解する。 3. プラネタリ・ギヤ・ユニットの増減速を理解する。 4. オートマチック・トランスミッション内部における動力の伝達経路を理解する。 5. 電子制御式オートマチック・トランスミッションの各ソレノイドの役割、コントロールバルブ及び油路を理解する。	2前	36				○	○			○	
○			ステアリング応用	1. パワーステアリングの構造・作動を理解する。 2. パワーステアリングの点検ができる。 3. パワーステアリングの故障が判断できる。 4. P/Sフルードのエア抜きが正しくできる。 5. ステアリング関連部品の脱着ができる。	2前	36				○	○				
○			ジーゼルエンジン	1. ジーゼルエンジン本体の分解組み立てをする。 2. ジーゼルエンジンの主要部品について理解する。 3. 燃焼室形状の構造を理解する。 4. ライナーの突き出し量の測定ができる。 5. バルブクリアランスの測定・調整ができる	2前	36				○	○			○	
○			A/T応用	1. FR車用のトランスミッション(AT車)の脱着方法を整備要領書通りに行い、習得する。 2. CVTの構造を理解できる。 3. トルクコンバータの脱着、AT車の安全装置を理解できる。 4. ATフルードの油量及び状態点検方法を習得する。また、その説明ができる。	2前	36				○	○			○	○
○			定期点検応用	1. 法定点検項目を時間内に点検することができる 2. 法定点検項目の作業項目の習熟 3. 点検箇所の正常と異常の違いが判断できる 4. 点検結果を正しく記録簿に記入できる 5. お客様に中間報告ができる(ロープレ) 6. お客様に商品提案ができる(ロープレ) 7. お客様に追加料金と時間の説明ができる(ロープレ)	2前	36				○	○			○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンジン 電子制御2	1. 電子制御エンジンの各センサの入出力値を測定できる 2. 測定値の意味が分かる 3. 制御内容を理解する	2前	36				○	○			○	○
○			電装品整備1	1. TS3級の技術能力要件の電圧点検、エアコン関係の作業ができる。 2. 電動格納ミラーの電圧点検が行う事ができる。 3. エアコンについては、整備要領書にしたがって性能点検ができる。	2前	36				○	○			○	○
○			大型車整備	1. エア製造系の構造と作動を理解(復習)。 2. エア式・複合式ブレーキ装置の構造・作動を理解する。 3. インタ・アクスル・ディファレンシャル、エキゾーストブレーキについて理解する。 4. 貨物車を正しい手順で分解、組立、故障探究ができる。 5. 大型車の動力伝達装置に使用されている各機構を理解できる。	2後	36				○	○			○	○
○			エンジン 電子制御3	1. 電子制御の理解(噴射量制御と点火時期制御、アイドル回転数制御、フェイルセーフ機能、インジェクタ駆動回路の故障診断) 2. 各種センサーの電源、信号電圧測定、点検部位に対し、配線図から必要な回路を抜き出して点検箇所にテストが当てられる 3. コンサルトⅢの接続、立ち上げ、自己診断、データモニタ表示を行なう 4. 実際に一般道を走行している車両の整備全般ならびに法定点検の実施	2後	36				○					
○			電装品整備2	1. 電位測定、電気信号の観測や点検が車両で出来る。(パワーウィンドウ) 2. 配線図集より必要な回路を抜き出し、電気回路が読める。(ESMを使用) 3. 車両に関する電気装置の脱着が出来る。(パワーウィンドウ・レギュレータ脱着) 4. オルタネータの脱着が車上でできる	2後	36				○	○			○	○
○			エンジン脱着	1、車両からパワートレインASSY脱着～エンジン始動させる。	2後	36				○	○			○	
○			車検	1. 2年点検を実施できる 2. 保安基準について理解する 3. 指定整備記録簿を記入することができる 4. お客様に整備結果説明ができる	2後	36				○	○			○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			総合整備	1. 日産3級技能要件の確認 2. コンサルトⅢの取扱いが出来る。 3. 各種点検(新1、新6、安心6か月)が出来る。 4. 各種作業(ブレーキ、エンジン周り、バンク修理等)が出来る。 5. 車両取扱い時の注意事項を熟知している。 6..就職後の車両取り扱い・作業全般を身に付ける	2後	36				○	○			○	○
○			電気自動車	1. EV基礎教育の修了(低圧電気取扱い者講習修了) 2. 先進安全装備のキャリブレーションの知識が習得できる	2後	36				○	○			○	
○			電装品整備3	1. 回路図から不具合箇所を推定し、テスターで証明することができる 2. 電流、電圧降下の点検ができ測定結果から正常・異常の判断が出来る。 3. オートエアコンの概要を理解する。 4. オートエアコンに使用されているセンサと取付位置、役割を理解する。 5. オート・ライトの作動および感度調整要領を理解する。6. ウィンドウ撥水の施工方法を理解し実際に施工できる	2後	36				○	○			○	
○			日産3級	日産販売会社の整備士として修得すべき知識を学習する。	2後	35		○			○			○	
○			整備作業機器	1. 電気・電子回路の構成と測定 2. デジタル・サーキット・テストの特性を理解 3. オシロスコープの測定方法を理解 4. 外部診断機の活用	3前	25		○			○			○	
○			エンジンA	1. 電子制御エンジンの実践的な故障診断の手法を身につける 2. センサ、アクチュエータ、ECUの機能、異常検知方法などを覚える	3前	52		○			○			○	
○			シャシA	1. エアコンの高度整備技術と応用知識を活用した実践的な故障診断技術の手法を覚える 2. センサ、アクチュエータ、ECUの機能、信号携帯、異常検知法を覚える	3前	49		○			○			○	
○			新技術A	自動車における新技術(ハイブリッド、CNG、筒内噴射式ガソリンエンジン、コモンレール式高圧燃料噴射システム)の構造機能、点検、整備について理解する	3前	40		○			○			○	
○			前期総合演習	前期教科のエンジン、シャシ、新技術分野を復習し、理解を深める	3前	19		○			○			○	
○			環境安全	1. 環境安全について法体系、具体的対処法を学ぶ 2. 安全に関する知識、具体的取組法を学ぶ	3前	17		○			○			○	

授業科目等の概要

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンジンB	1. CAN通信の概要、通信の仕組み、点検と診断を理解する 2. ECUの制御を理解する 3. エンジン電子制御装置の故障診断方法を理解する	3後	27		○			○		○		
○			シャシB	1. パワーステアリング、ABSなどの高度整備技術と応用知識を活用した実践的な故障診断技術の手法を覚える	3後	54		○			○		○		
				2. センサ、アクチュエータ、ECU の機能、信号形態、異常検知法を覚える。											
○			新技術B	1. CVT、エアバックシステム、車両安定装置の構造、機能を理解する。	3後	36		○			○		○		
				2. 上記機能の点検、整備方法を理解する。											
○			総合診断	1. サービス産業の概要、役務 2. 問診と整備結果説明	3後	22		○			○		○		
○			後期総合演習	1. 後期のエンジン、シャシ、新技術分野を復習し、理解を深める。	3後	19		○			○		○		
○			自動車検査・法規	検査機器(スピードテスタ、ブレーキテスタ、ヘッドライトテスタ、騒音計、サイドスリップテスタ、COHCスモーク、オパシメータ)の理解。 道路運送車両法、商及び民に関連する消費者契約法について理解を深める。	3前	17		○			○		○		
○			計測	車両整備に必要な計測機器(オシロスコープ、メモリハイコーダ、コンサルト(診断器))の取り扱いを習得	3前	32					○	○		○	
○			工作	整備工場で使用する機械工具及び電気工具の取り扱いを習得。	3前	32					○	○		○	
○			ECCS	1. 制御系統別点検(燃料噴射制御、点火制御、アイドル回転数制御、フューエルポンプ制御)をサーキットテストにて測定。	3前	64					○	○		○	○
				2. 理論的な故障診断ができる。											
○			エアコン	1. ケージ・マニホールド、ガス漏れ探知機等を使用し、冷凍サイクルの点検、不具合箇所の特定ができる。	3前	64					○	○		○	○
				2. オートアンプの自己診断、サーキットテスター等で、整備要領書に則ってオートエアコンの点検・判定に基づき、不具合箇所を特定できる。											

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			新技術	1. VDC(ABS, TCS, VDC)の基本点検、車載自己診断及び外部診断器による自己診断 2. システム作動時の車両各部の信号を高速で記録し、そのデータより実際の制御状態を理解	3後	64				○	○		○		
○			AT	AT, CVTの電子部品の点検、不具合個所の特定ができる。	3後	64				○	○		○		○
○			総合実習1	受付対応～整備結果説明、エンジン、車体電装の故障診断ができる。	3後	48				○	○		○		
○			総合実習2	販売会社で求められる技術を身につけさせる	3後	48				○	○		○		
○			車体電装	1. コンビネーションスイッチ読み取り機能の通信内容を確認し、点検方法、故障診断方法を修得。 2. CAN通信の通信内容を確認し、点検方法、故障診断方法を修得。	3後	64				○	○		○		
○			騒音・振動	車体、トリム等から発生している騒音・振動に対してテスターを活用して発生部位を絞り込み、発生部位を特定できる。	3後	64				○	○		○		○
○			ワンディインターン	販売会社に赴いて、現場の作業を体験する。	3後	8				○		○	○		○
○			研究活動	1. テーマ設定から研究発表までの一連の流れを実施し、報・連・相、行程・資金管理、物品調達、プレゼンテーションスキル等今後に必要な素養を身につける 2. 4年次に実施する「卒業研究」の研究テーマを決定し、計画書の承認を受ける。 3. グループ内でのコミュニケーションから折衝能力を身に付ける	3後	32				○	○		○		
○			定期点検	1. 確実な新車点検及び法定1年点検作業を身につける。 2. 時間を意識した正確な作業ができる。	4前	62				○	○		○		○
○			インターン前実習	1. インターンシップ先で行う作業を想定し充実したインターンシップを過ごせるよう作業経験を積ませる。 2. CSを意識した車両の取り扱いを行う。	4前	62				○	○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インターン	販売会社に赴いて、現場の作業を体験する。	4前	224				○		○	○		○
○			評価実習1	現場で行われる部品の交換作業を指示なしで行えるようにする。	4後	57				○	○		○		
○			評価実習2	1. 販売会社での一般整備項目の習熟を測る。 2. 高度オプション部品の取り付け作業を習得する。	4後	57				○	○		○		
○			卒業研究	1. 報・連・相、行程・資金管理、物品調達、プレゼンテーションスキル等今後に必要な素養を身につける。 2. 自動車について知識・理解を深める。 3. 折衝能力を身に付ける。	4後	145				○	○		○		
○			EV技術教育	1. EV 特有構成部品の確認と実務に関連した知識を習得する。 2. 高電圧部品脱着時の各種注意事項と脱着時のカン・コツを確認する。 3. CONSULT-ⅢPlus を使用し、EV 特有の基本的な診断が出来る。	4後	30				○	○		○		○
○			新技術C	1. 一級自動車工学科の卒業生として先端技術の種類や動きを知る 2. 就職後に作業するであろう新技術機構の調整作業ができる	4後	30				○	○		○		○
○			総合診断1	1. 一級自動車整備士として身に着けるべき実践的な知識、技能を修得する	4後	48				○	○		○		○
○			総合診断2	1. 自己診断機能で表示されない高度な故障診断技術を身に付ける。 2. 入庫～納車までのお客様対応を身に付ける。	4後	48				○	○		○		○
○			総合訓練	一級自動車整備士として身に着けるべき実践的な知識、技能をエンジン電子制御、シャシ電子制御、新技術について修得する。	4後	99				○	○		○		
○			お客様対応C	基本的な問診技術、整備結果説明要領を身につける。	4前	32		○			○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合演習2A	・整備機器、車両、シミュレーター及び練習問題を利用し、国家1級テキストの内容を理解する。	4前	100		○			○		○		
○			総合演習2B	1. 整備機器、車両、シミュレーター及び練習問題を利用し、国家1級テキストの内容を理解する。	4後	139				○	○		○		
合計			82 科目		4,099単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法							授業期間等	
学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、70点以上で履修とする。							1 学年の学期区分	2期
必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ卒業を認める。							1 学期の授業期間	25週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。